

海洋深層水利用学会

2020 年度定期総会議案書



議事次第

番号	項目
I	2020-2021 年度理事選挙結果
II	2019 年度事業報告
III	2019 年度決算報告
IV	2019 年度監査報告
V	2020 年度事業計画
VI	2020 年度予算
VII	その他

日時：2020 年 7 月 31 日（金）～ 8 月 14 日（金）
場所：書面による審議

I. 2020-2021 年度理事選挙結果

理事選出者

個人会員：

池上 康之
今田 千秋
大内 一之
大塚 耕司
尾高 義夫
清水 勝公
高橋 正征
深見 公雄
安永 健
山田 勝久

団体会員〔担当者氏名〕：

沖縄県〔久保 弘文〕
高知県〔川北 浩久〕
富山県〔田子 泰彦〕
一般社団法人マリノフォーラム 21〔白石 學〕

※50 音順（敬称略）

役員

- | | |
|--------|---------|
| ■ 会長 | 大塚耕司 理事 |
| ■ 副会長 | 池上康之 理事 |
| ■ 会計監査 | 安永健 理事 |

(委員長・副委員長)

- | | |
|-------------------------------------|---------|
| ■ 学会賞審査委員会委員長 | 池上康之 理事 |
| ■ 研究発表企画委員会委員長 | 清水勝公 理事 |
| ■ 論文誌編集委員会委員長 | 大内一之 理事 |
| ■ ニュースレター編集委員会委員長 | 今田千秋 理事 |
| ■ ホームページ編集委員会委員長 | 尾高義夫 理事 |
| ■ 利用促進委員会委員長 | 山田勝久 理事 |
| ■ 日台韓交流委員会委員長 | 高橋正征 理事 |
| ■ 〃 副委員長 | 安永健 理事 |
| ■ 総合戦略検討委員会委員長 | 池上康之 理事 |
| ■ 産公学連携推進委員会委員長 | 深見公雄 理事 |

(委員)

- | | |
|-----------------|-----------|
| ■ 総合戦略検討委員会委員 | 井上興治 指名理事 |
| ■ ホームページ編集委員会委員 | 大久保澄 陪席者 |
| ■ 論文誌編集委員会委員 | 石井晴人 陪席者 |
| ■ 産公学連携推進委員会委員 | 大貫麻子 陪席者 |
| ■ 産公学連携推進委員会委員 | 鈴木達雄 陪席者 |
| ■ 事務局長 | 有馬博史 陪席者 |
| ■ 事務局 | 松本理恵 陪席者 |

II. 2019 年度事業報告

1. 事務局

[1] 会員動向

年	月	個人	団体
2011	3	160	45
2012	3	162	45
2013	3	151	43
2014	5	148	42
2015	5	141	46
2016	5	134	44
2017	5	130	44
2018	5	122	44
2019	5	123	42
2020	6(30)	117	40

[2] 2019 年度定期総会

開催日：2019 年 5 月 29 日（水） 15:00-15:50

場 所：東京海洋大学品川キャンパス白鷹館 2 階多目的ルーム 1

議 題：2018 年度事業報告

2018 年度決算報告

2018 年度監査報告

2019 年度事業計画

2019 年度予算

その他

講演会：

時間： 16:00-17:30

場所： 総会会場（上記）と同会場

演題 1（16：00-16：30）：「海洋深層水の有効利用と有用微生物の探索と産業への応用」
東京海洋大学 教授 今田 千秋 氏

演題 2（16：30-17：00）：「海洋深層水による海域肥沃化のための洋上取水装置の開発と
海洋深層水の大規模活用技術への貢献」

株式会社大内海洋コンサルタント 代表取締役 大内 一之 氏

演題 3（17：00-17：30）：「海洋深層水をベースにした機能性化粧品の開発と普及」

株式会社ポイントピュール 代表取締役 大道 敦 氏

情報交換会：東京海洋大学 生協食堂

[3] 2019 年度理事会

第 1 回 日時：2019 年 5 月 29 日(金) 13:00-14:00

場所：東京海洋大学 品川キャンパス 白鷹館 2 階多目的スペース 1

第 2 回 日時：2019 年 10 月 11 日(金) 13:00-14:00

場所：鹿児島大学稲盛会館 会議室

第 3 回 日時：2020 年 6 月 3 日(水) 10:00-12:00

場所：Web 会議（事務局主催 Webex）

2. 学会賞授賞審査委員会

[1] 学会賞授与対象者，授与対象となった業績および選考経過：

大塚 耕司（大阪府立大学大学院人間社会システム科学研究科）

「多様な海洋深層水資源の環境影響に配慮した多目的利用の研究と社会への啓蒙活動」

大塚耕司氏は、長年にわたって海洋深層水が含む栄養塩類による藻場の肥沃化に関して、現場実験を精力的に進め、同時に理論的解析を駆使し、海洋深層水による海域肥沃化の効果的方法の開発と効果の定量評価で素晴らしい研究成果を上げている。さらに、海洋深層水という単一物質が栄養塩類に限らず冷熱エネルギー、水などといった多様な資源性をもつことに着目し、それら複数の資源性の多目的利用の重要性を早くから認識して効果的な利用の検討を進めている。さらに、持続的な海洋深層水の資源利用の限界や環境影響の可能性についても検討されて数多くの論文を公開されている。大塚氏の海洋深層水の資源利用にあたっての包括的利用の視点と実践は、海洋深層水利用学会として極めて大きな指針となり、具体的な資源利用の方法と合わせて、高く評価され、学会賞に十二分に値するものと評価した。

[2] 特別功労賞（新設）授与対象者，授与対象となった業績および選考経過：

吉嶺 明人（タラソネットかごしま）

「海洋深層水とその資源利用に関する社会啓蒙活動」

吉嶺 明人氏は、南日本新聞社在職中の 2002 年 2 月から 1 年間をかけて特別企画「タラソ（海）新世紀の恵み」を 5 部構成で 51 回連載している。連載では、海洋深層水の多様な資源性とその再生性に着目して、具体的な資源性や利活用から、第 5 部の共生では、安全性や環境への影響まで論じ、海洋深層水とその資源利用にいたる幅広い分野を分かりやすく解説したものである。この内容は、海洋深層水の資源とその利用を大局的に分かりやすく解説したものであり、極めて卓越した実績と評価できる。吉嶺氏は、上記の企画で取り上げた内容をさらに広げ、深めるとともに、その後の各方面の展開を精力的に取材され、その内容を 2009 年 5 月から「かごしまタラソニュース」として季刊で公表している。他にも広く一般に海洋深層水の魅力を周知される記事を執筆されている。一方、海洋深層水利活用の意義を含め、海の可能性をテーマにした講演活動も続けられている。以上、吉嶺氏は、海洋深層水とその資源利用についての社会啓蒙活動で尽力され大きな役割を果たしていると高く評価され、特別功労賞に十二分に値するものと評価した。

3. 研究発表企画委員会

第 23 回 海洋深層水利用学会 全国大会

日時：開催日時：2019 年 10 月 10 日(木)

場所：鹿児島大学稲盛会館キミ&ケサメモリアルホール

開催内容：

① 一般講演：研究発表：15 題

海洋・水質／生物・水産／農業・畜産関連／健康・医療関連：9 題

② ポスター発表 3 題

③ 特別講演：S 1. 奄美の離島における海洋温度差発電構想（井上興治（NPO 海ロマン 21 理事））

見学会：

10/11-12 薩摩川内市下甕島（台風 19 号襲来のため中止）

開催状況(参加者):

総員 100 名（スタッフ含む）

会員 57 名 非会員 38 名

（韓国：4 名、台湾：11 名の海外からも 15 名の参加）

4. 論文誌編集委員会

- [1] 「海洋深層水研究 第 19 巻 第 3 号」 （2019 年 7 月発行）
原著論文 2 編、解説記事など
- [2] 「海洋深層水研究 第 20 巻 第 1 号」 （2019 年 10 月発行）
鹿児島大会 講演論文 18 編

5. ニュースレター編集委員会

- [1] Vol.22, No.1（2019 年 6 月 11 日掲載）
報告 1：海洋深層水利用学会 2018 年度第 3 回理事会報告
安永 健（海洋深層水利用学会 事務局長）
報告 2：第 22 回海洋深層水利用学会「2018 韓国大会」報告
今田 千秋（DOWAS NEWS 編集長）
- [2] Vol.22, No.2（2019 年 9 月 19 日掲載） ※日英両言語
報告 1：「2018 年度台湾深層海水資源利用学会年会報告」
黄 秉益（台湾深層海水資源利用学会事務局長）
報告 2：第 9 回沖縄ハワイ海洋エネルギー及び経済開発シンポジウム&ワークショップ開催中止報告（9 月 28 日、29 日）
大田 直樹（久米島町役場プロジェクト推進課）
- [3] Vol.22, No.3（2020 年 1 月 29 日掲載） ※日英両言語
報告 1：国際海洋深層水シンポジウムならびに第 18 回韓国海洋深層水利用学会大会
高橋正征（海洋深層水利用学会 会長）・魚再善（韓国海洋深層水利用学会 会長）
報告 2：海洋深層水利用促進委員会 2019 鹿児島大会報告
山田 勝久（利用促進委員会委員長）
報告 3：第 10 回沖縄ハワイ海洋エネルギー及び経済開発シンポジウム&ワークショップの報告
岡村 盡（(一社) 国際海洋資源エネルギー利活用推進コンソーシアム（GOSEA）事務局／(株)ゼネシス）

6. ホームページ編集委員会

主な活動内容 ... ホームページ更新・メール配信※

[1] 開催案内・報告等

- ① 総会・理事会開催案内および報告
- ② 全国大会（研究発表会）案内・報告、ホームページからの申込み
- ③ 利用者懇談会開催案内・報告
- ④ 学会賞候補者募集および受賞者決定報

[2] 発刊物掲載

- ① ニュースレター：第 22 巻第 1～3 号
- ② 論文誌：第 20 巻第 1 号

[3] 既存ページの更新・追加

・活動内容、組織構成・役員等 掲載内容の更新

[4] メールアドレス登録会員へのメール配信

メールニュース、全国大会関連、定期総会・学会賞候補募集他学会からのお知らせ、深層水関連フォーラム・会員提供情報のお知らせ

[5] バナー広告の試行開始

日本語サイト>トップページの下に、バナー広告および募集案内・申込書バナーを掲載 (3/10 現在の契約数：1 件)

7. 利用促進委員会

[1] 2019 年海洋深層水利用者懇談会

2019 年度は鹿児島における利用者懇談会は盛況に終わり、タラソネットかごしま吉嶺様が、海洋深層水利用学会 2019 鹿児島大会ならびに全国利用者懇談会の内容を記事として紹介された(かごしまタラソニュース, No.42, (2020)pp8-9)

[2] 海洋深層水の利用促進に向けた医療・健康分野における周知・啓発活動

海洋深層水におけるマイクロプラスチック(MP)にフォーカスした総説論文を執筆するべく関連論文の情報収集を行い、3 月初旬時点で約 500 報の関連論文をレビューしたが、海洋深層水中の MP 濃度が他の深度に比べて低いことを示唆する報告は見つかっていない。

[3] 第三期海洋基本計画に呼応した海洋深層水の周知・啓蒙活動

久米島プロジェクト(仮称)について、2019 年度は予算獲得に向けて、経産省や沖縄総合事務所を訪問し、本プロジェクトに関しての御理解および好適な助成金申請の御指導を頂いた。助成金申請について申請候補の選出し、申請者となる久米島との調整を行う段階で、現状では久米島からの申請は、他事業の関係で難しいとの返答あり、申請できていない。今後の実

施方針について、理事に諮り、久米島町の見解を理解・納得の上、当学会として、久米島町の状況が改善されるまで本プロジェクトの積極的な活動を休止するものとし、本プロジェクトの再始動を考慮した情報収集作業は継続して行うということということで理事会の合意が確認された。

8. 日台韓交流委員会

[1] ニュースレターへの台湾および韓国における活動報告

2018年12月6日、7日に開催された台湾深層海水資源利用学会特別シンポジウムならびに成果報告会、および2019年11月14日、15日に開催された第18回韓国海洋深層水利用学会大会をニュースレターに報告した。

[2] 会員派遣

2019年11月14日、15日に韓国江原道高城の国会議員研修館で開催された第18回韓国海洋深層水利用学会大会に高橋正征会長が招待された。2019年11月29日に台湾基隆市の国立台湾海洋大学で開催された、台湾深層海水資源利用学会国際シンポジウムに高橋正征会長が招待され、基調講演者として今田千秋理事が出席した。

9. 総合戦略検討委員会

- ・2019年度は内閣府海洋総合政策本部等、関係機関との情報収集を行った。
- ・科研費(新学術領域)への申請は行っていない。科研費は、当初取組予定の新学術領域に変わり学術変革領域が新設され、2020年1月に正式に発表があった。その内容について協議したが、比較的40代前半の若手を支援する内容であり、申請を見送った。

III. 2019 年度決算報告

2019年度会計収支報告書

収入の部	人数		予算		人数		決算
会費収入							
個人会員	5,000	121	605,000		5,000	115	575,000
学生会員	2,500	4	10,000		2,500	2	7,500
団体会員	50,000	42	2,100,000		50,000	41	2,050,000
徴収免除会員(名誉会員)	-	1	0		-	1	0
未納分会費収入	5,000	8	40,000				
その他の収入							
論文誌売上費			0				6,000
利息			0				50
雑収入							21,600
当期収入合計(A)			2,755,000				2,660,150
前年度繰越金			5,675,309				5,675,309
収入合計(B)			8,430,309				8,335,459
支出の部							
事業費							
総会			30,000				29,700
研究発表企画委員会			500,000				257,686
論文誌編集委員会			1,000,000				671,813
HP/NL編集委員会			350,000				307,016
日台韓交流委員会			100,000				55,260
利用促進委員会			100,000				0
選挙管理委員会			40,000				34,518
事務局経費							
委託費			1,200,000				1,200,000
消耗品費							7,417
通信運搬費							14,074
旅費							38,920
その他事務経費							39,696
当期支出合計(C)			3,520,000				2,656,100
当期収支差額(A)-(C)			-765,000				4,050
次年度繰越金(B)-(C)			4,910,309				5,679,359

IV. 2019年度監査報告

2020年 4月 7日

海洋深層水利用学会


会長 高橋 正征 様

2019年度会計監査報告

2019年度における本学会の会計に関して、出納帳簿および証拠書類を精査し、現金・預金の残高と照合しましたところ、すべて適正に処理されているものと認めました。

また、その他の会務に関しましても、会則に沿って適正に執行されているものと認めました。

以上、署名の上、報告します。

監査 白石 學 

V. 2020 年度事業計画

1. 総会および理事会

[1] 2020 年度定期総会

開催日： 2020 年 7 月 31 日(金)
場 所： メールおよび封書による審議
議 題： 2020-2021 年度理事選挙結果
2019 年度事業報告
2019 年度決算報告
2019 年度監査報告
2020 年度事業計画
2020 年度予算
その他

講演会：

今年度は中止

[2] 2020 年度理事会

第 1 回理事会

開催日： 2020 年 7 月 2 日(木) 14：00 - 15：00

場 所： Web 会議 (事務局主催 Webex)

ほか、メール審議を含め数回程度理事会を開催する予定

2. 研究発表委員会

第 24 回海洋深層水利用学会全国大会

開催日： 2020 年 10 月 29 日(木) 10：00 - 17：00

開催場所： Web 会議システムを用いたオンライン会議

3. 論文誌編集委員会

「海洋深層水研究」第 20 巻第 1 号・2 号 3 号の発行

印刷部数：各 300 部程度

第 2 号については全国大会要旨集

4. ニュースレター編集委員会

年 4 回のニュースレター発行 (6 月、9 月、12 月、2021 年 3 月)

内容：ニュースレター、特集、報告等

5. ホームページ編集委員会

ホームページ更新・メール配信

①開催案内・報告等：総会・理事会開催、全国大会・利用者懇談会関連 (申込みフォーム)、学会賞

②発行物：ニュースレター、論文誌

- ③既存ページの更新・追加等
- ④バナー広告募集開始

6. 学会賞受賞審査委員会

学会賞候補者の募集（6月11日ホームページ掲示、6月12日メール配信）

推薦期限：2020年8月31日（月）必着

提出書類：別紙様式（郵送またはメール）

書類提出先：海洋深層水利用学会 事務局

7. 利用促進委員会

[1] 全国利用者懇談会（2020 海洋深層水利用学会全国大会）

例年全国大会の前日午後から全国利用者懇談会を開催しているが、今年度の全国大会はWeb開催に決まったので、これを行うことができない。

全国の海洋深層水利用者に普遍的な利益となる海洋深層水関連の情報を提供できるような企画を考える。この情報についてポスター発表形式で参画する。

[2] 海洋深層水の利用促進に向けた医療・健康分野における周知・啓発活動（学術）

最近にわかに騒がしくなってきた海洋のマイクロプラスチック問題を鑑みて、本問題に対する正しい理解を促すことで海洋深層水の利用促進の鈍化を回避したいと思います。具体的な方策として、海洋深層水利用におけるマイクロプラスチック問題についてレビュー論文作成の上、当学会誌に投稿し、広く利用者に周知・啓発を図る予定です。

[3] 海洋深層水の利用促進に向けた医療・健康分野における周知・啓発活動（実証）

高橋正征会長、池上康之総合戦略検討委員、竹内啓晃先生（国際医療福祉大学教授、高知大学客員教授）に協力頂き、企画内容および研究予算などの検討を継続する予定です。

8. 日台韓交流委員会

日台韓交流協定に基づき、以下の事業を実施する。

- (1) 相互の学会大会への会員の派遣に関する事
- (2) 相互の学会論文集への論文投稿に関する事
- (3) 相互の情報誌への記事掲載に関する事

9. 総合戦略検討委員会

[1] 関係省庁への2019年度の海洋深層水利用分野の動向の報告と今後の展望等について報告し、提案および情報交換等を行う。

[2] 海洋深層水利用に関する学術分野の推進

・外部資金への応募

 科研費「新学術領域研究（研究領域提案型）」への申請

 ・・・新たな研究領域を設定して異分野連携や共同研究、
 人材育成等を図る大規模なグループ研究をサポート

 ・生物生産分野

 ・環境分野

 ・エネルギー分野

 ・医療・健康分野

 ・地方創生分野、など。

・全国の深層水利用の学術分野での利用推進

 全国の海洋深層水取水施設と全国共同利用共同研究施設

 佐賀大学海洋エネルギー研究センターが、協力して、可能な範囲で
 学術的な利用促進方法の検討

VI. 2020 年度予算

2020 年度一般会計予算案

単位(円)

収入の部				
【会費収入】	個人会費収入	113*	¥5,000	¥565,000
	学生会費収入	2*	¥2,500	¥5,000
	団体会費収入	40*	¥50,000	¥2,000,000
	2019年度会費収入(未納者)	4*	¥5,000	¥20,000
期収入合計[A]				¥2,590,000
	繰越金			¥5,679,359
収入合計[B]				¥8,269,359
支出の部				
【事業費】	総会			¥30,000
	研究発表企画委員会			¥500,000
	論文誌編集委員会			¥1,000,000
	HP/NL編集委員会			¥350,000
	利用促進委員会			¥20,000
	日台韓交流委員会			¥0
【事務局経費】	委託費			¥1,200,000
	その他事務経費			¥200,000
当期支出合計[C]				¥3,300,000
次年度繰越金[B]-[C]				¥4,969,359
当年度収支[A]-[C]				¥-710,000

VII. その他

○その他の事項無し

(以上)